

第 8 回調査で新たに追加した設問

1995 年の第 1 回以来、8 回目となる「水にかかわる生活意識調査」。今回、新たに 5 つの設問を追加しました。

Q. 日常生活で水とかかわる時間は？

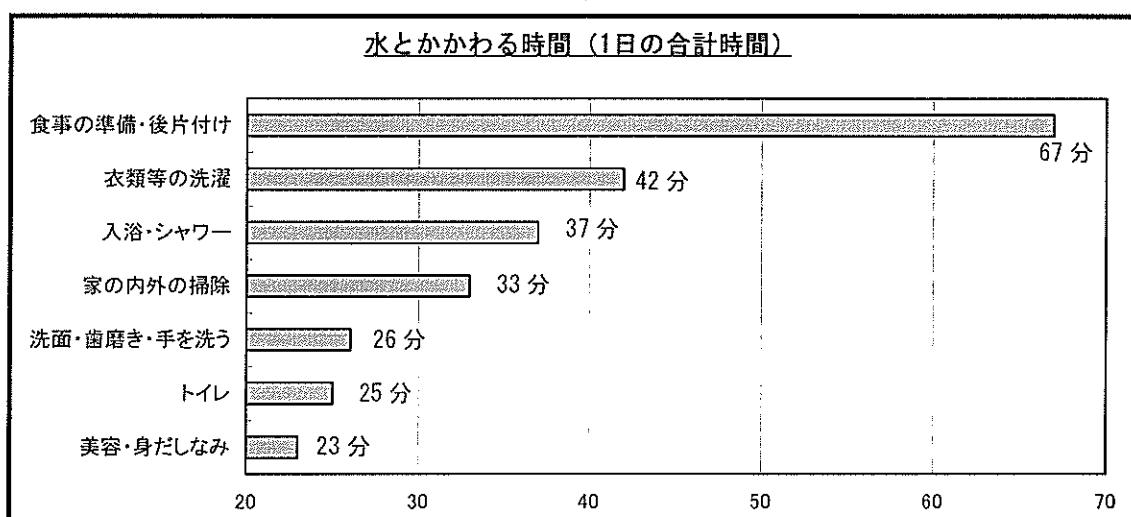
◇水にかかわる時間がもっとも長いのは『食事の準備・後片付け』で 67 分

日常生活で水にかかわっている時間はどれくらいでしょうか。

代表的な「水に接する場面や行動」を挙げて、1 日平均それぞれどれくらいの時間を割いているかを分単位で答えてもらいました。

もっとも長時間だったのは『食事の準備・後片付け』で 1 日平均 67 分。以下『衣類等の洗濯』（42 分）、『入浴・シャワー』（37 分）、『家の内外の掃除』（33 分）などと続きました。

男女別に見ると、やはり「家事」に関する項目については大きな差があり、『食事の準備・後片付け』は男性 43 分に対して女性 92 分でした。



水にかかわる行動	全体	男性	女性
①食事の準備・後片付け（炊事やお茶等の準備・後片付け等）	67 分	43 分	92 分
②衣類等の洗濯（洗濯機・手洗い、ズック靴の水洗い等）	42 分	32 分	53 分
③入浴・シャワー（行水・身体を拭く等を含む）	37 分	37 分	38 分
④家の内外の掃除	33 分	28 分	38 分
⑤洗面・歯磨き・手を洗う	26 分	25 分	27 分
⑥トイレ（水洗トイレ、ビデや使用後の手洗いを含む）	25 分	24 分	25 分
⑦美容・身だしなみ（化粧・整髪・ひげ剃り等）	23 分	22 分	24 分

Q. 災害等で家庭の水道が止まったとしたら、どうしますか？

◇全般的に『行政等の救援の給水』頼みだが、「飲用」では『常備してある水』も利用

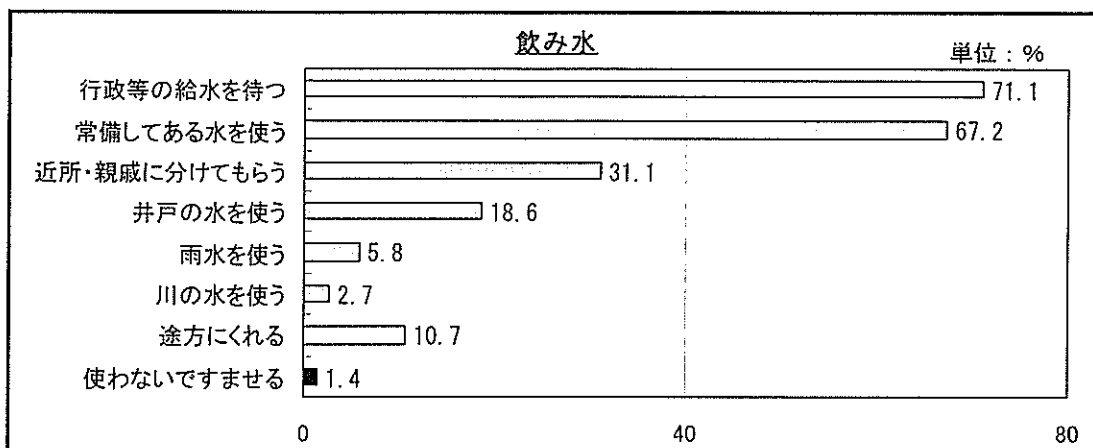
◇「トイレ」「風呂」では『雨水』や『川の水』など自然の水の活用も想定

災害や地震などにより家庭の水道が止まってしまったら…という仮定の下、「飲み水」「料理」「風呂」「洗面」「水洗トイレ」それぞれに使う水について『どうするか』を聞きました。全般的に『行政等の救援の給水』頼みという傾向が見られますが、直接口にする「飲み水」「料理に使う水」では『常備してある水を使う』という回答も半数を超えています。

■ 飲用に使う水（10 択+その他/複数回答）

◇ 『行政等の救援の給水を待つ』と『常備してある水を使う』が多数派

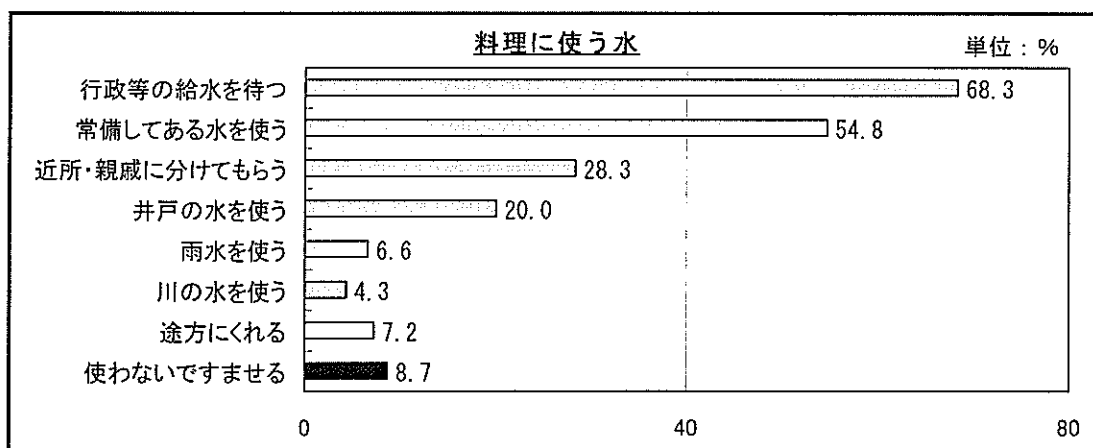
そのまま口に入れる「飲用の水」。トップは『行政等の救援の給水を待つ』（71.1%）で、『常備してある水を使う』（67.2%）が小差で続きました。都会では身近にない、あるいは安全性に心配がある『井戸の水』『雨水』『川の水』は2割に達しませんでした。



■ 料理に使う水（7 択+その他/複数回答）

◇ 『行政等の救援の給水を待つ』と『常備してある水を使う』が多数派

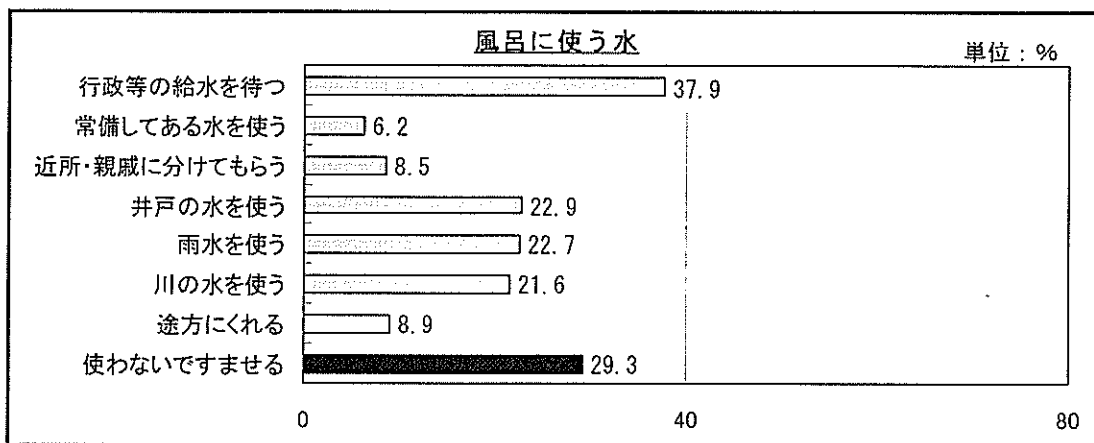
加熱して摂取する「料理に使う水」も「飲用の水」と似たような結果で、『行政等の救援の給水を待つ』（68.3%）、『常備してある水を使う』（54.8%）が多数派でした。



■ 風呂に使う水（7 択+その他/複数回答）

◇ 風呂も『行政等の給水』がトップ、3割近くは『使わないですませる』

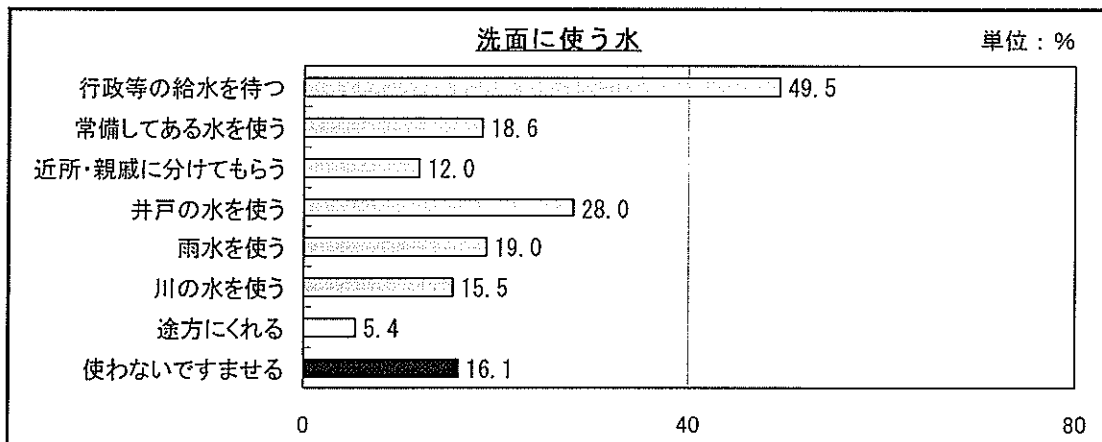
世界一風呂好きといわれる日本人。とはいえ「飲用の水」と違って、なくてもすぐに生命にかかわるものでもありません。トップは「飲用」「料理」と同様『行政等の救援の給水を待つ』で37.9%、次いで『使わないですませる』（29.3%）が続きました。また口に入れるわけではないせいか、『井戸の水』『雨水』『川の水』も2割を超えています。



■洗面に使う水 (7択+その他/複数回答)

◇トップの『行政等の救援の給水を待つ』に続いて『井戸の水を使う』が2位に

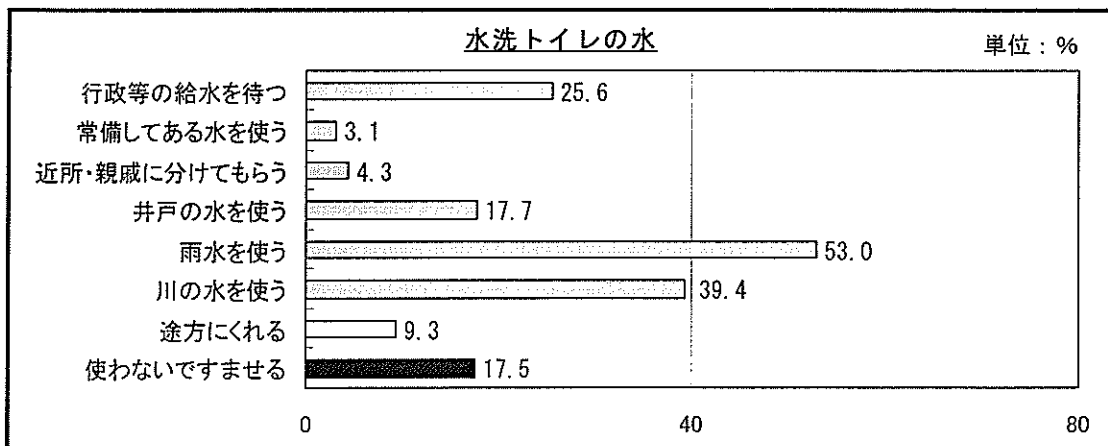
飲むことはないとはいえ、口をゆすぐこともある「洗面」。トップの『行政等の救援の給水を待つ』(49.5%) 以下は、2位『井戸の水』(28.0%)、3位『雨水』(19.0%)、4位『常備してある水』(18.6%)、5位『川の水』(15.5%) と比較的回答がばらつききました。



■水洗トイレに使う水 (7択+その他/複数回答)

◇トイレには『雨』『川』など自然の水の活用を想定

衛生的な生活を維持するためには欠かせない汚物の処理。1位『雨水を使う』(53.0%)、2位『川の水を使う』(39.4%) など、他の用途に比べて自然の水が高率でした。



Q. あなたがよく飲む飲料は？ (13 択)

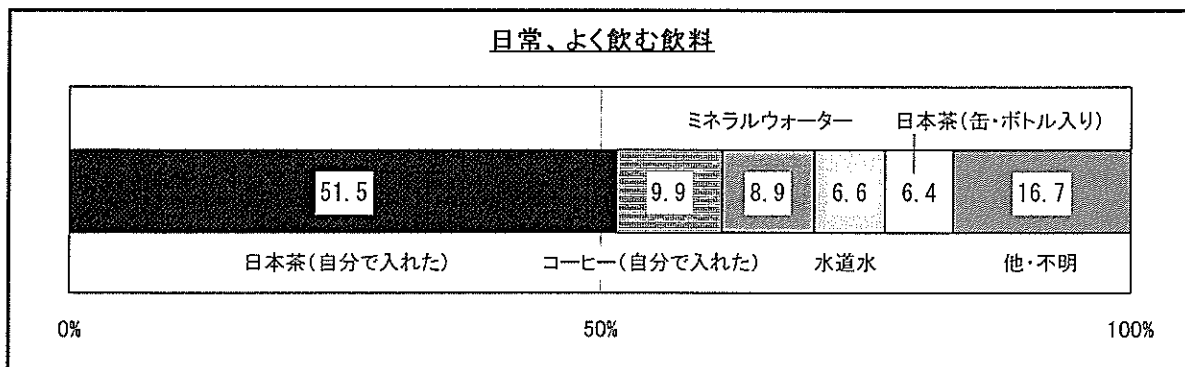
- ◇全体でも属性別でも『自分で入れた日本茶』が圧倒的トップ
- ◇女性、60代、中京圏が『自分で入れた日本茶』を特に好む傾向

生命維持のためには欠かせない水分補給。日本人はどのような飲み物で水分を摂取しているのでしょうか。日常、自分自身がよく飲む飲料を答えてもらいました。

1位は『自分で入れた日本茶』で5割を超えました。お茶がノンカロリーの健康飲料として見直されていることの影響もあると見られますが、やはり長年にわたって親しんできたことが最大の理由と思われる。日本人にとってお茶は、入れるという行為を含めて、安心やくつろぎに通じる何かを感じさせてくれる、まさに日常の飲料といえるのではないのでしょうか。

2位以下は『自分で入れたコーヒー』(9.9%)、『ミネラルウォーター』(8.9%)などと続きましたが、1割に達しませんでした。

『自分で入れた日本茶』は属性別(男女、年代、居住地)で見てもトップですが、若干の数字の差異が見られます。男女別では女性(57.6%)と男性(45.4%)で約12ポイントの差、年代別では50代(57.0%)と20代(46.6%)で約10ポイントの開き、居住地別では中京圏(61.3%)と東京圏(43.7%)で約18ポイントの違いが出ています。



属性別『自分で入れた日本茶』の回答比率

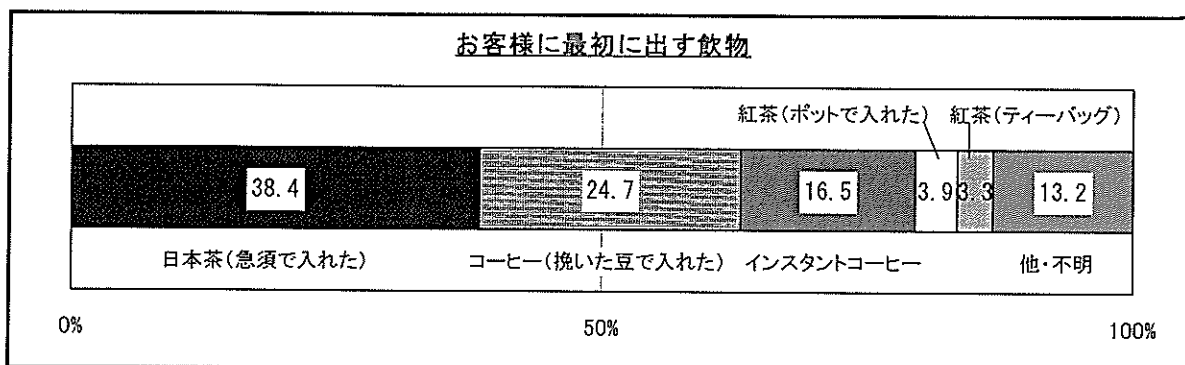
性別		年代別				居住地別		
男性	女性	20代	30代	40代	50代以上	東京圏	大阪圏	中京圏
45.4%	57.6%	46.6%	52.1%	49.6%	57.0%	43.7%	56.4%	61.3%

Q. 最初にお客様に出す飲み物は？ (9 択+その他)

- ◇トップ3は『急須で入れた日本茶』『挽いた豆で入れたコーヒー』『インスタントコーヒー』
- ◇日本茶とコーヒーがお客様への2大飲料

1位は前問同様『日本茶(急須で入れた)』でしたが、前問よりも10ポイント以上低い38.4%にとどまりました。2位も前問と同じく『コーヒー(挽いた豆で入れた)』で24.7%でした。お客様には“本式に入れる”のが原則といえそうです。

入れ方は別にして飲料の種類だけを見ると、日本茶は41.3% (『急須で入れた』『ティーバッグで入れた』の合計)、コーヒーは41.2% (『挽いた豆で入れた』『インスタント』の合計)、紅茶は7.2% (『ティーポットで入れた』『ティーバッグで入れた』の合計) となっており、日本茶とコーヒーがお客様への2大飲料といえそうです。



Q. 水辺の自然がもっとも損なわれていると思う都道府県は？ (自由回答)

◇1位『東京』、2位『大阪』で8割を超す

◇東京圏居住者は『東京』を、大阪圏は『大阪』をワースト1に

清流や自然といった言葉のイメージからはほど遠い大都市部の水辺。そこに住む人たちが考える、もっとも水辺環境が損なわれている都道府県はどこでしょうか。

全体では1位の『東京』(55.1%)、2位の『大阪』以外は5%に達しておらず、8割以上がこの2府県に集中しました。

居住地別に見ると、東京圏在住者が挙げたワースト1は『東京』、逆に大阪圏の挙げたワースト1は『大阪』でした。

水辺の自然がもっとも損なわれていると思う都道府県トップ3 [単位：%]

	全 体		東京圏		大阪圏		中京圏	
1	東京	55.1	東京	62.8	大阪	53.0	東京	65.5
2	大阪	28.7	大阪	18.6	東京	34.2	大阪	19.3
3	千葉	3.1	千葉	4.5	兵庫	2.0	愛知	5.0